

放射性物質が与える様々な障害、それでも原発は必要ですか？

福島第一原発事故により、大量の放射性物質が撒き散らされたことにより、その周辺の広大な土地、空気、海までも取り返しがつかないほど汚染されてしまいました。

事故から3ヶ月経つのに未だ、汚染水の処理が問題となっています。また、水蒸気と一緒に放射性物質が飛散しています。内部被爆をした作業員の数も日ごと多くなっています。この内部被爆を受けると、比較的早く症状が表れるのが白血病で、被爆から数年後に発症し始めると言われています。その他、甲状腺機能低下や肝機能低下、心筋梗塞など、あらゆる障害が起こると言われています。

脱原発をめざそう！

日本には、現在54基の原発があります。原発一基作ると数千億の利益があると言われていいます。だからこそ推進派は、「電力不足は暮らしに困る」とか「原発はCO2を出さないから環境にいい」「原発は絶対に安全」と主張しながら強引に建設を進めてきました。しかし、福島原発は大事故を起こしたのです。爆発で放射性物質が漏れ出すと、今度は「直ちに健康に影響を及ぼすものでない」と繰り返し、拳句の果てには「被爆限度」さえも勝手変えてしまうことを平気でやっているのです。このような政府・東電の原発ありきのエネルギー政策を断じて許してはなりません。人間は、放射線、放射物質とは共存できません。原発に頼らない自然エネルギーの開発こそ、いま最も求められているのです。

原発は核兵器の原料となるプルトニウムを生み出す！

原子炉でウランを燃やすと「使用済み核燃料」がでます。それを再処理するとプルトニウムと高レベル放射性廃棄物に分類されます。すでに日本では、長崎原爆を4000発も作ってしまうほどのプルトニウムを普通の原子力発電所で作りだし、分離し保有しています。

原発を推進すればするほど、その技術と材料であるプルトニウムが手に入り、製造能力を維持することができるのです。だからこそ御用学者、政府、電力会社は一体となり、脱原発、自然エネルギーへの転換には反対するのです。

「電力不足」を口実にした原発推進に反対しよう！

「節電」「電力不足」がマスコミを使って大きく報道されています。確かに節電、節約は生活する上にも大切です。しかし本当に電力が不足しているのでしょうか？火力、水力がどうなっているかは、一切明らかにしていません。やはり本質的には、「節電」の呼びかけは、脱原発の流れを食い止め、本州再北端にある大間原発が建設途中になっているのを建設する。そのような野望が働いているかのようにも見えます。現在でも電力会社は市場を独占し、経費も電力料金に上乗せができるシステムになっています。要するにもうかるシステムがしっかりできあがっているからこそ、脱原発の流れを容認できないのです。

環境にやさしく、自然を大切に、人の命を大切にする、そのような社会をめざすことがこれからも大切だと思います。

